

公開実用 昭和60-40187

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭60-40187

⑬ Int.Cl.⁴

H 04 R 1/10

識別記号

1 0 4

庁内整理番号

A-7314-5D

⑭ 公開 昭和60年(1985)3月20日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 イヤホン

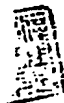
⑯ 実 願 昭58-133359

⑰ 出 願 昭58(1983)8月29日

⑱ 考 案 者 薦 田 敏 幸 東京都大田区南馬込4-37-4-202

⑲ 出 願 人 藤木電器株式会社 東京都渋谷区渋谷1-1-15

⑳ 代 理 人 弁理士 福田 勤



明 細 書

1. 考案の名称

イヤホーン

2. 実用新案登録請求の範囲

耳介内の耳甲介腔に外耳道入口に対向させて配設するイヤホーンユニット本体の収納ケースに、耳輪と連続し前記外耳道入口の上部に突出する耳輪脚に掛止する掛止部材を設けたことを特徴とするイヤホーン。

3. 考案の詳細な説明

本考案はイヤホーン、特にイヤホーンユニット本体の収納ケースを耳介内の耳甲介腔に外耳道入口に対向させて配設するイヤホーンに関する。

この種のイヤホーンは、ヘッドホーンのようなヘッドバンドを必要としない上に形状も耳甲介腔に装着できる大きさであるから、小形コンパクトで携帯に非常に便利である。また、外耳道に挿入する耳栓がないから装着感が良い等の利点がある。

ところが、頭を傾けたり、寝転んだりしてイヤホーンを装着した方の耳を下にすると、耳からイ

イヤホンが簡単に脱落する欠点がある。特に両耳（ステレオ等）で使用のときなどは何れか片方が脱落する傾向にある。

本考案は上記に鑑み提案されたもので、外耳道入口の上部に突出する耳輪脚を利用する簡単な構成によつて、ローラスケート、ジョギング等の軽い運動程度では脱落しないイヤホンを提供することを目的とする。

以下、図面に示す実施例について説明する。1はイヤホンユニット本体の収納ケースで全体を肌触りの良いレザー、スポンジ等の被覆体2で包んである。3は収納ケース1から引出したリード線、4は収納ケース1と一体に設けた掛止部材で、その先端部はU字状に折曲げられており、耳介5の耳輪5aと連続し外耳道入口7の上部に突出する軟骨でできた耳輪脚6に掛止するようになつてゐる。

図示例は上記掛止部材4を収納ケース1の背面中央部に設けてあるが、収納ケースの側面に設けてもよく、また、使用者が任意に装着状態を調節

できるように掛止部材自体を可撓性とするか収納ケース１に対して可動自在に設けるを可とする。

本考案イヤホーンは上記の構成であるから、第２図に示すように収納ケース１を外耳道７の入口に一致させて、耳甲介腔８内に装着し、掛止部材４の先端掛止部４aを耳輪脚６に引掛けると、収納ケースの重量および下方に垂下するリード線３の重量が耳甲介腔８の底部８aにかかるとともに収納ケース１の後面が耳珠９、対珠１０で押えられるため、収納ケース１は耳甲介腔８内に確実に装着保持される。

従つて、イヤホーンつまりイヤホーンユニット本体の収納ケース１は単に耳を下向きにする程度では脱落することがない。また、上記の装着状態において、耳介内面に突出する対耳輪脚１１が掛止部４aに当接して該掛止部を耳輪脚６と対耳輪脚１１で挟持するようにすれば前記の点と相俟つてより確実に保持することができる。

以上のように本考案によれば、イヤホーンユニット本体の収納ケースに耳介内面に突出する耳輪



脚に引掛ける掛止部材を設けたから，簡単な構成によつて前記の目的がよく達成される効果がある。

4. 図面の簡単な説明

第 1 図は本考案イヤホーンを耳介内に装着した状態の斜視図，第 2 図はその縦断正面図である。

1 は収納ケース，5 は耳介，6 は耳輪脚，7 は外耳道，8 は耳甲介腔，9 は耳珠，10 は対珠，11 は対耳輪脚。

実用新案登録出願人

藤木電器株式会社

代

理

人

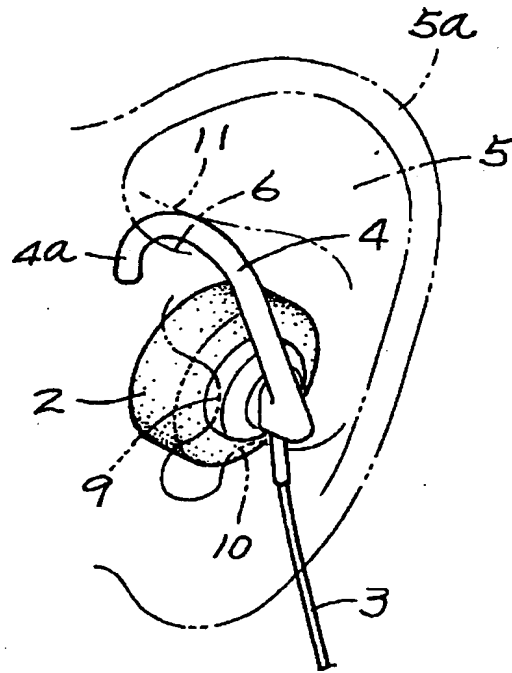
福

田

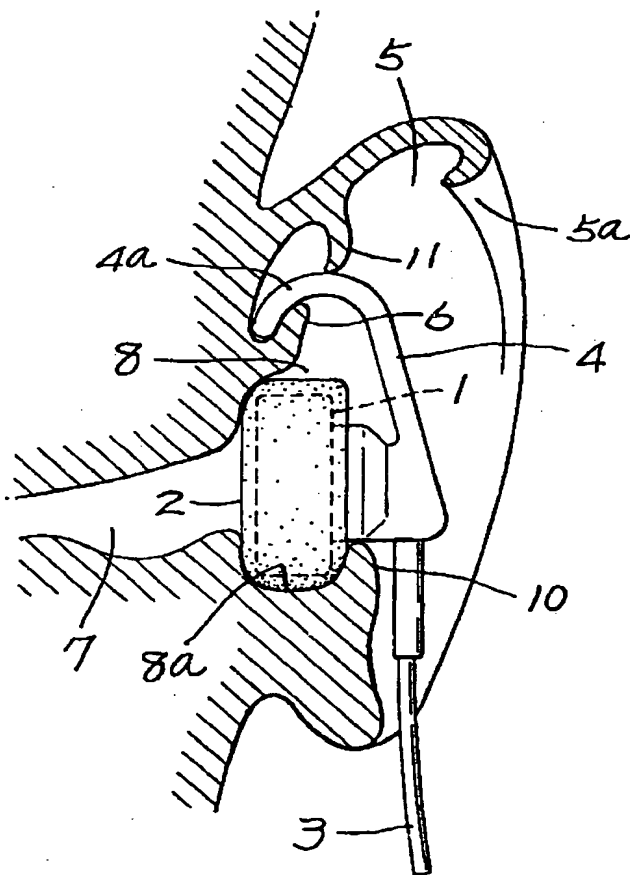
勸



第 1 図



第 2 図



818

代理人 福田 勸

